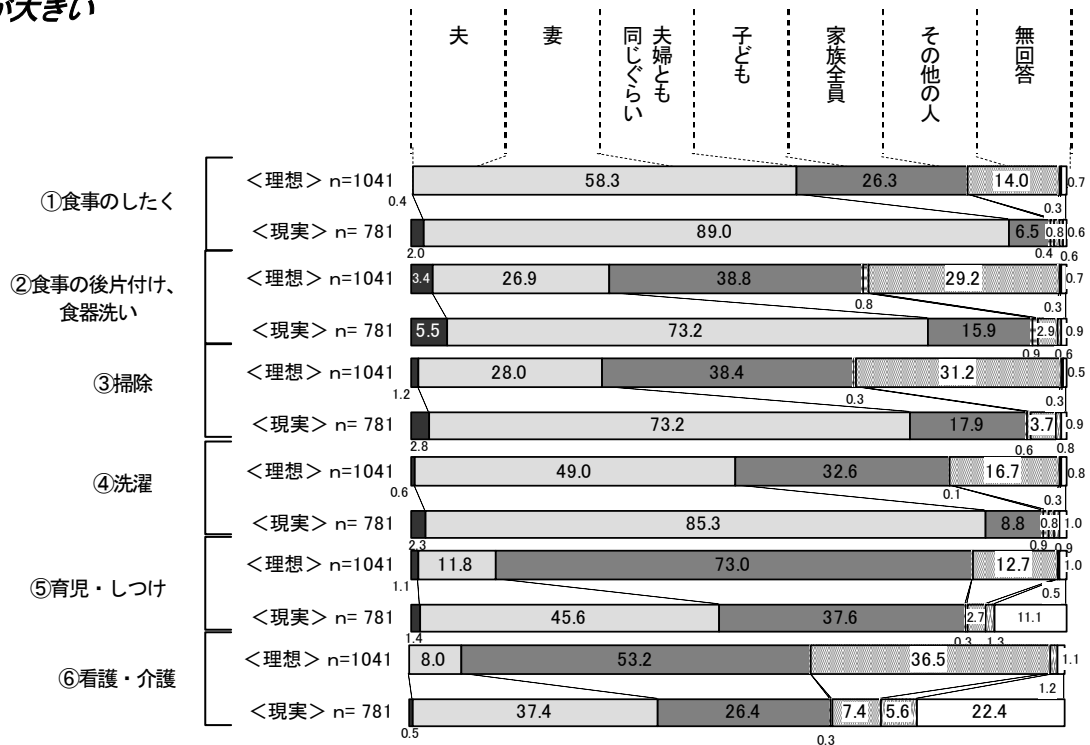


男女共同参画に関する市民意識調査報告書（抜粋）

■理想と現実の比較

❖理想は“夫婦とも同じぐらい”で「育児・しつけ」を負担、現実はずべての項目で“妻”の負担が大きい



◆◇全体◆◇

理想では「育児・しつけ」で「夫婦とも同じぐらい」が73.0%と最も多く、次に「看護・介護」で「夫婦とも同じぐらい」が53.2%となっています。

現実では「食事のしたく」で「妻」が89.0%と最も多く、次に「洗濯」で「妻」が85.3%となっています。

❖すべての項目で理想に対して現実の数値が高くなっています

(%)

全体	①食事のしたく	②食事の後片付け・食器洗い	③掃除	④洗濯	⑤育児・しつけ	⑥看護・介護
理想	58.3	26.9	28.0	49.0	11.8	8.0
現実	89.0	73.2	73.2	85.3	45.6	37.4
差(現実－理想)	30.7	46.3	45.2	36.3	33.8	29.4

◆◇“妻”の理想と現実の割合◆◇

すべての項目で「妻」とした割合に着目し、理想と現実を比較しました。

「食事の後片付け・食器洗い」は、「理想」での割合は26.9%となっていました、「現実」については、73.2%と46.3ポイントの大きな差がみられました。「掃除」についても、「理想」の割合は28.0%となっていました、「現実」は73.2%と45.2ポイントの差がみられました。

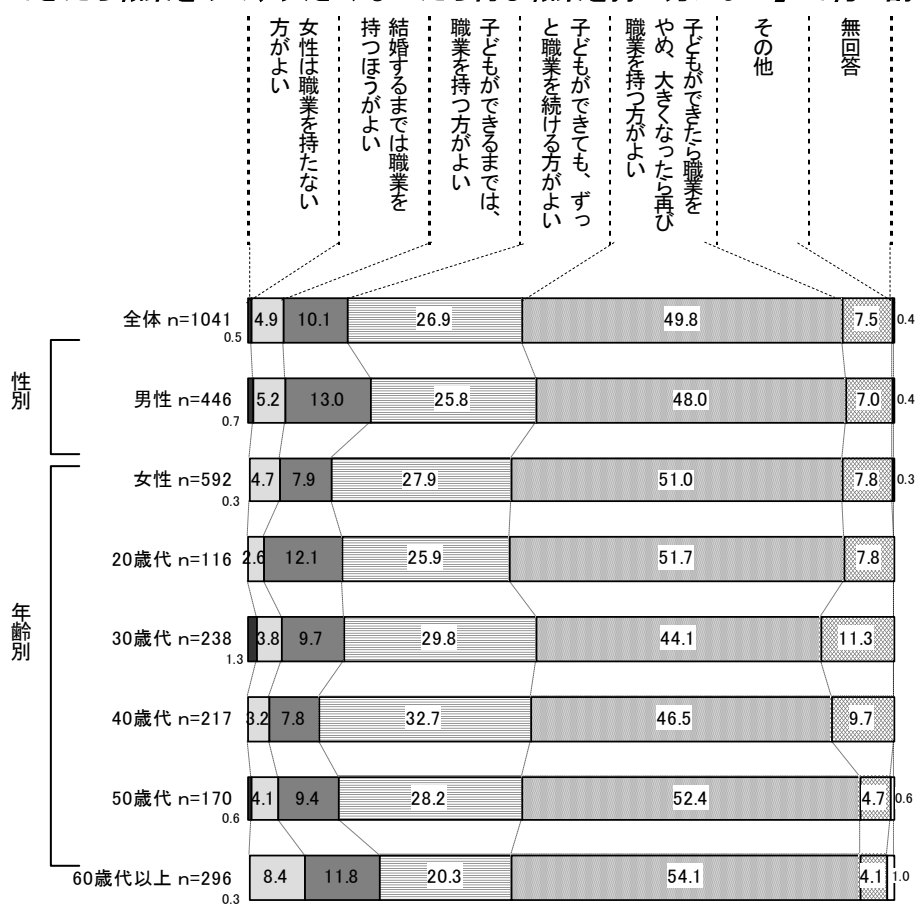
その要因として、「理想」では男女ともに「夫婦とも同じぐらい」、「家族全員」を選択していても、「現実」は「妻」が行っている様子がうかがえます。

3 職業生活について

3-1 女性の社会進出に関する意識

問 13 一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

❖ 「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」で約5割



◆◆全体◆◆

「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が 49.8%と最も多く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(26.9%)となっています。

◆◆性別◆◆

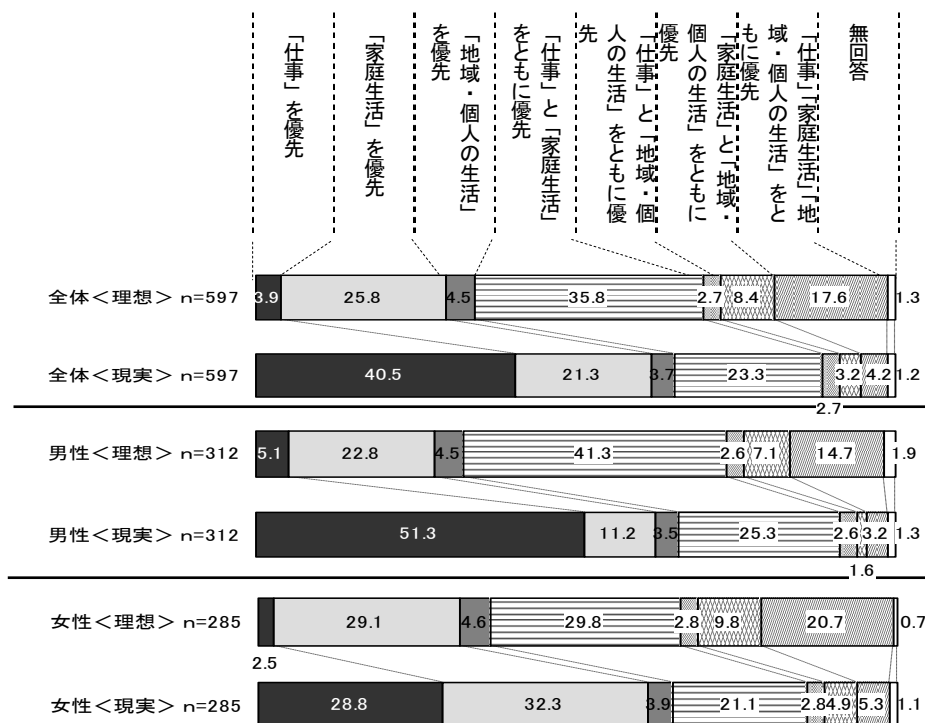
差はあまりみられません。

◆◆年齢別◆◆

「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は、60 歳代以上が 54.1%と最も多く、次いで50 歳代の52.4%、20 歳代の51.7%となっています。

■理想と現実の比較

♣理想では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が、現実では「仕事を優先している」が最も多い



◆◇全体◆◇

理想では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが35.8%と最も多く、現実では23.3%となっています。また、理想で「仕事」を優先したいが3.9%なのに対し、現実では40.5%となっています。

◆◇性別◆◇

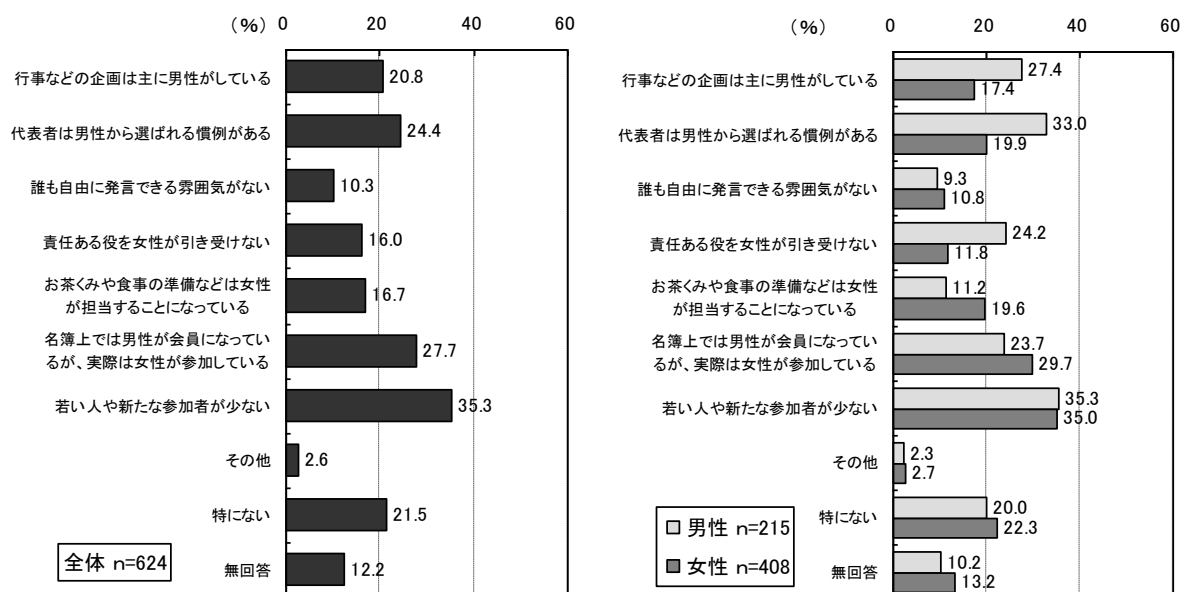
男性の理想は「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが41.3%と4割を超え、女性の理想では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいは29.8%と約3割となっています。

男性の現実では「仕事」を優先しているが51.3%と5割を超えています。女性の現実では「家庭生活」を優先しているが32.3%と3割を超えています。

4－3 地域活動の場における状況

問 23(2) 参加している（いた）地域活動の場で、あなたは次のようなことを感じますか。（あてはまるものすべてに○）

❖ 「若い人や新たな参加者が少ない」と感じているは3割強



◆◆全体◆◆

「若い人や新たな参加者が少ない」が 35.3%と最も多く、次いで「名簿上では男性が会員になっているが、実際は女性が参加している」（27.7%）、「代表者は男性から選ばれる慣例がある」（24.4%）の順となっています。

◆◆性別◆◆

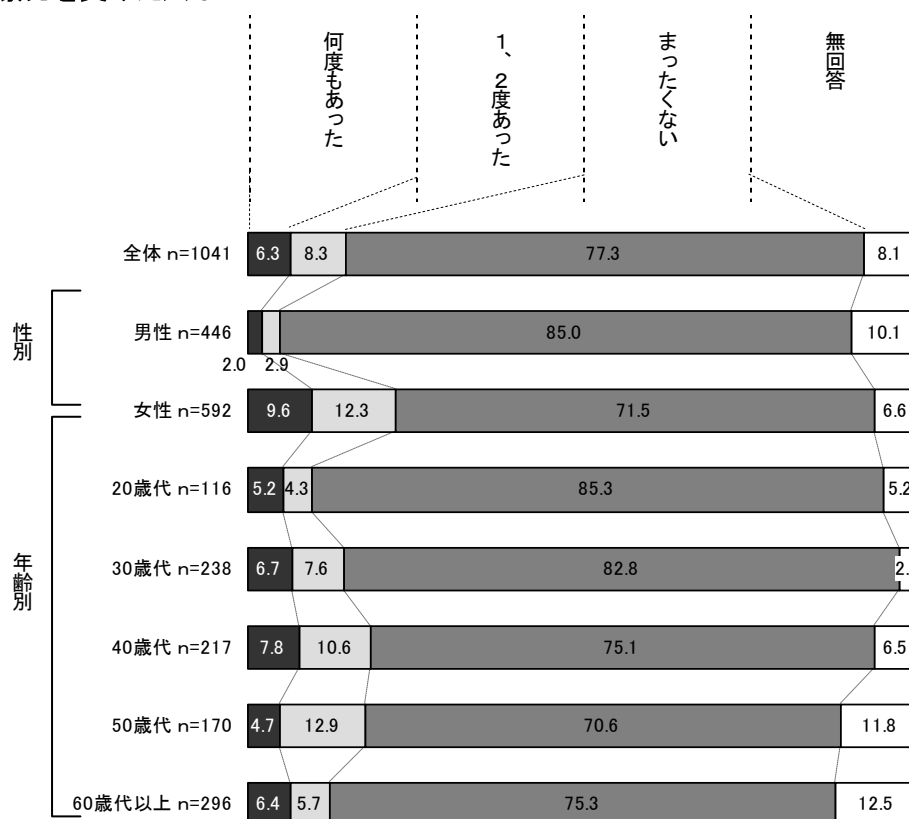
性別に関わらず「若い人や新たな参加者が少ない」が最も多くなっています。

また、男性では「代表者は男性から選ばれる慣例がある」（33.0%）、女性では「名簿上では男性が会員になっているが、実際は女性が参加している」（29.7%）の割合がそれぞれ多くなっています。

7-2 暴力被害の経験

問 29 これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）から、身体的・精神的・性的・経済的暴力を受けたことがありますか。（○は1つ）

❖何らかの暴力を受けた人は14.6%



◆◆全体◆◆

「まったくない」が77.3%で最も多くなっています。

◆◆性別◆◆

男性では“何らかの暴力を受けた人”（「何どもあった」と「1、2度あった」を合計）が4.9%であるのに対し、女性では21.9%と多くなっています。

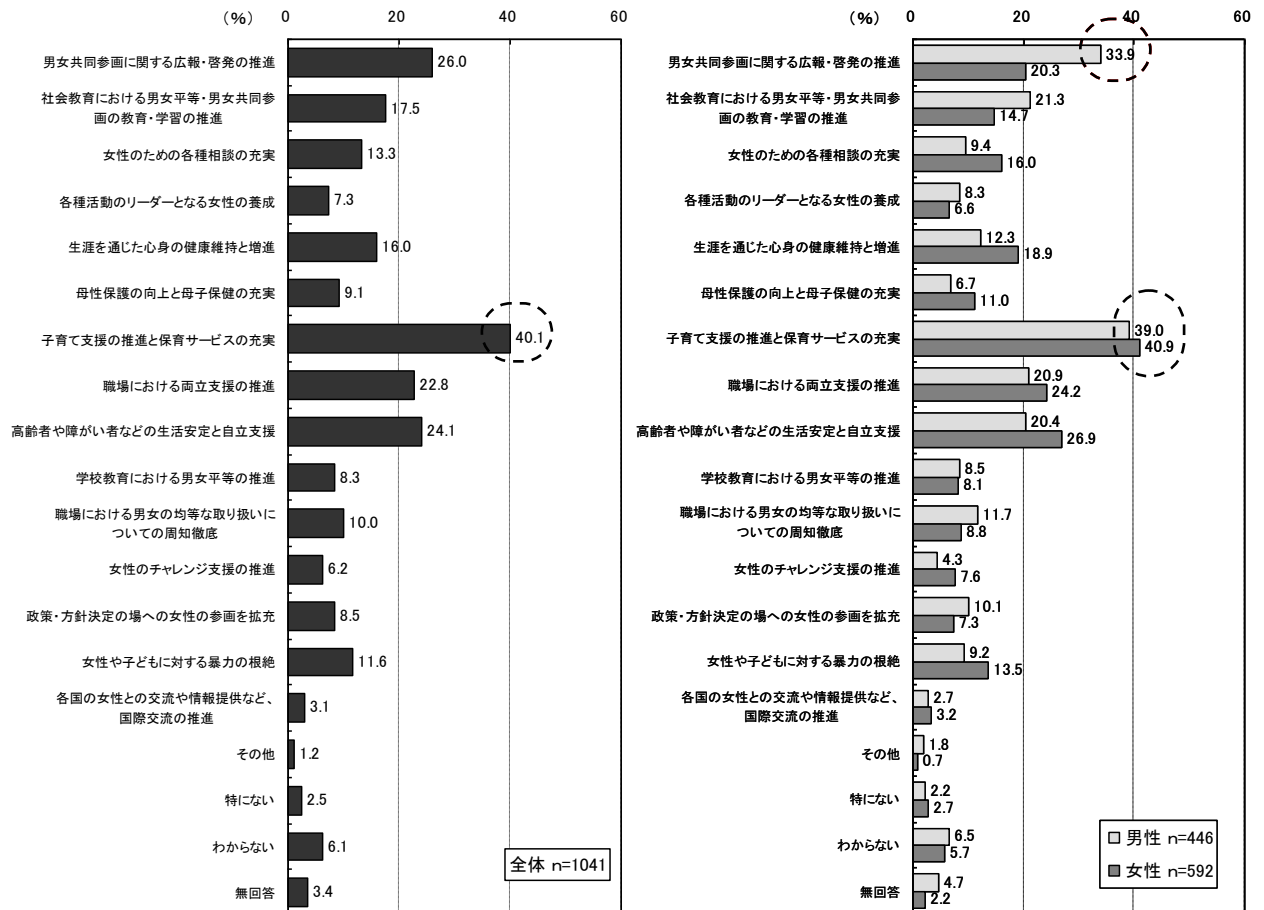
◆◆年齢別◆◆

“何らかの暴力を受けた人”は20歳代で10%未満と低く、逆に40歳代、50歳代では20%弱となっています。

8-4 男女共同参画社会を形成するために市が力を入れるべき施策

問 32 男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

❖ 「子育て支援の推進と保育サービスの充実」に力を



◆◆全体◆◆

「子育て支援の推進と保育サービスの充実」が 40.1%で最も多く、次いで「男女共同参画に関する広報・啓発の推進」(26.0%)、「高齢者や障がい者などの生活安定と自立支援」(24.1%)の順となっています。

◆◆性別◆◆

性別に関わらず「子育て支援の推進と保育サービスの充実」が最も多く、男性で 39.0%、女性で 40.9%となっています。次いで、男性では「男女共同参画に関する広報・啓発の推進」(33.9%)、女性では「高齢者や障がい者などの生活安定と自立支援」(26.9%)、「職場における両立支援の推進」(24.2%)が上位となっています。

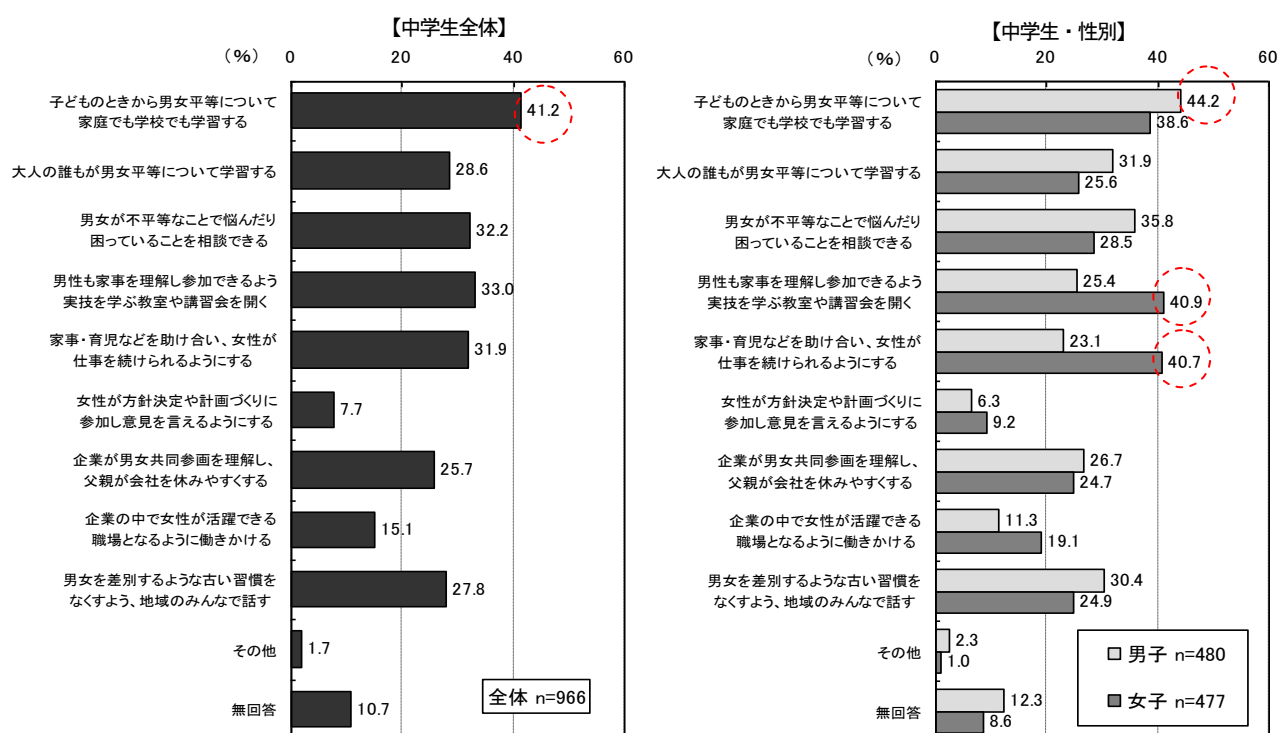
7 男女共同参画への取組について

問 20 春日井市では、男だから女だからと決めつけしないで、誰もがその人らしく個性や能力を発揮することができる「男女共同参画社会」の実現を目指しています。

これから、どのようなことに力を入れて取り組むとよいと思いますか。（あてはまるもの3までに○印）

♣中学生は「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」

高校生は「家事・育児、介護などをみんなで助け合い、女性が仕事を続けられるようにする」

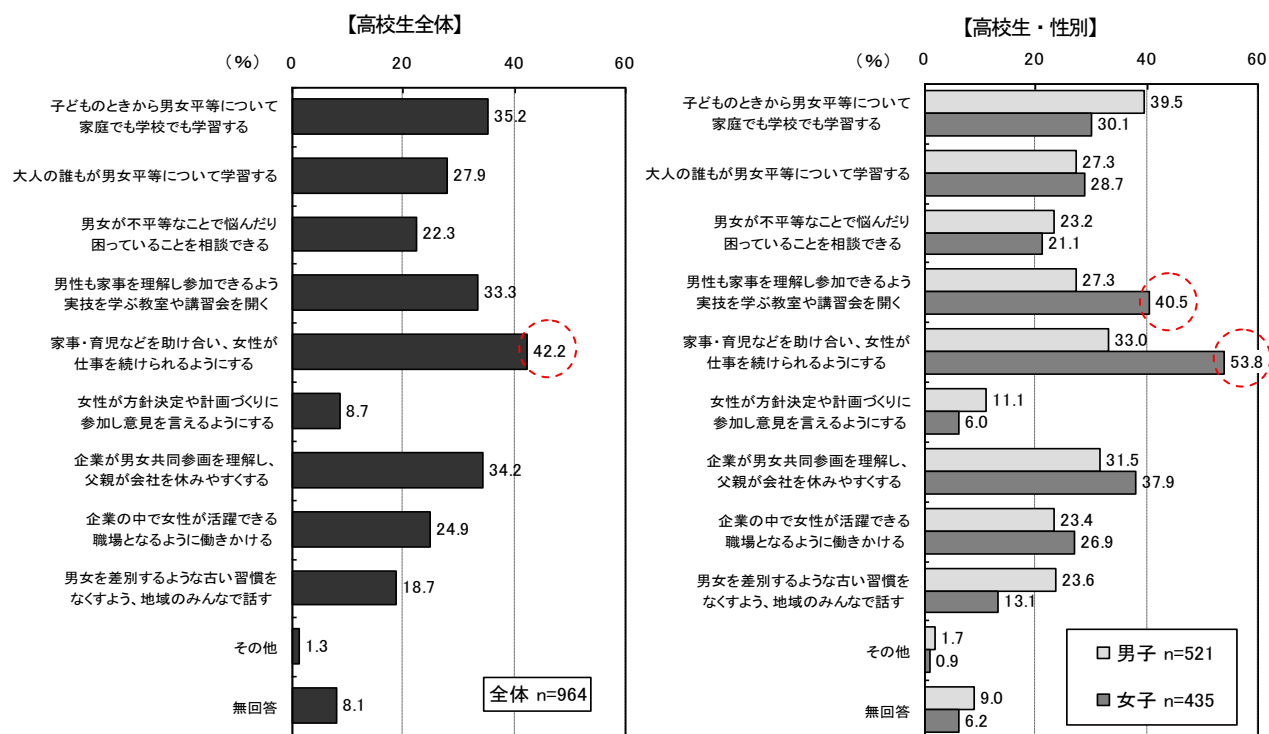


◆◇中学生◆◇

全体でみると、「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」が41.2%で最も多く、次いで「男性も家事を理解し参加できるよう実技を学ぶ教室や講習会を開く」(33.0%)、「男女が不平等なことで悩んだり、困っていることを相談できる」(32.2%)の順となっています。

性別でみると、男子の40%を超える項目は、「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」(44.2%)となっています。

また、女子の40%を超える項目は、「男性も家事を理解し参加できるよう実技を学ぶ教室や講習会を開く」(40.9%)、「家事・育児などを助け合い、女性が仕事を続けられるようにする」(40.7%)となっています。



◆◇高校生◆◇

全体でみると、「家事・育児などを助け合い、女性が仕事を続けられるようにする」が42.2%で最も多く、次いで「子どものときから男女平等について家庭でも学校でも学習する」(35.2%)、「企業が男女共同参画を理解し、父親が会社を休みやすくする」(34.2%)の順となっています。

性別でみると、男子では「子どものときから、男女平等について家庭でも学校でも学習する」(39.5%)が最も高くなっています。

女子では「家事・育児などを助け合い、女性が仕事を続けられるようにする」(53.8%)が5割を超え、次いで、「男性も家事を理解し参加できるよう実技を学ぶ教室や講習会を開く」(40.5%)となっています。

■その他の内訳

中学生
・育児休暇をすすめる。
・お互いを尊重し合い、同じ立場で物事を考える事。
・学校で男女のふれあいの場をつくる。
・地域で男女が仲良くなれる行事を計画して楽しむ。
・自由らしい生き方を表現するお祭やイベントをする。
・その他（5件）

高校生
・法律の平等化。
・両親共に働けるよう子育て施設を充実させる。
・産休というものが取りにくい感じがするので、積極的に取れるようにしてほしい。
・男女平等はある程度は必要だと思うが、実際に女性が人の上に立つのは何かと問題があると思う。
・その他（5件）